

# 疎外と革命——マルクス主義の再建

ラーヤ・ドゥナエフスカヤ 三浦正夫 対馬忠行 訳 現代思潮社







著者近影

Title : Marxism and Freedom

—from 1776 until today

Author : Raya Dunayevskaya

Originally copyrighted by Raya Dunayevskaya

*Japan translation right reserved by Masao Miura  
arranged through author.*

## 目次

まえがき・・・・・・・・・・7

日本語版への序文・・・・・・・・・・13

### 第一部 実践から理論へ——一七七六年から一八四八年まで・・・・・・・・・・21

第一章 産業的・社会ならびに政治的・知的革命の時代・・・・・・・・・・23

(一) 本と生活のなかにみられたフランス革命・・・・・・・・・・24

(二) パリの大衆とフランス大革命・・・・・・・・・・27

(三) 哲学者と革命——自由とヘーゲル弁証法・・・・・・・・・・31

(四) ヘーゲルの絶対的なものと絶対的なものについてのわれわれの時代・・・・・・・・・・39

第二章 古典経済学、労働者の蜂起、ならびに空想的社会主義者たち・・・・・・・・・・49

(一) 労働者の連続的な蜂起と古典経済学の終焉・・・・・・・・・・52

(二) 空想的社会主義者とピエール・ブルードン、精神的欺瞞の一事例・・・・・・・・・・55

第三章 新しいヒューマニズム

——マルクスの初期の経済学ならびに哲学に関する諸著作・・・・・・・・・・61

(一) 弁証法的唯物論と階級闘争、あるいは、いかなる種類の労働か? . . . 62

(二) 私有財産と共産主義 . . . 70

(三) 共産主義者によるマルクスの『経済学・哲学草稿』の歪曲 . . . 75

## 第二部 歴史の転換点における労働者と知識人

——一八四八年から一八六一年まで . . . 83

### 第四章 労働者・知識人・国家 . . . 85

(一) 一八四八年の革命と急進的知識人 . . . 85

(二) 国家社会主義者フェルジナンド・ラッサール . . . 92

## 第三部 マルクス主義、理論と実践の統一 . . . 99

### 第五章 アメリカにおける南北戦争が『資本論』の構造にあたえた衝撃 . . . 101

(一) 奴隸制廃止論者 南北戦争 ならびに第一インターナショナル . . . 102

(二) 歴史の理論に対する関係 . . . 108

### 第六章 パリ・コンミュニオンは『資本論』の内容を照明し深めた . . . 120

(一) 資本の専制的計画に対立する自由を連合した労働者の協働 . . . 120

(二) パリ・コンミュニオン——労働者支配の形態 . . . 123

(三) 商品ならびに計画の物神崇拜に対立する、自由に連合された労働ならびに生産の統制 . . . 128

第七章 『資本論』第一巻の人間主義と弁証法 一八六七年——一八八三年・・・135

(一) 労働という範疇の分裂——抽象的労働と具体的労働、労働と労働力・・・135

(二) マルクス経済学の諸範疇と生産点における闘争、不変資本と可変資本、あるいは死んだ労働の生きた労働にたいする支配・・・148

(三) 資本の蓄積ならびに、新しい力と情熱・・・159

第八章 『資本論』第二巻ならびに第三巻の論理と規模・・・169

(一) 社会的生産の二部門——生産手段と消費資料・・・170

(二) 仮象と現実・・・177

(三) 資本主義の崩壊——恐慌、人間的自由ならびに『資本論』第三巻・・・185

第九章 第二インターナショナル 一八八九——一九一四年・・・203

(一) 第二インターの成果、労働組合とプロレタリアートの政治組織・・・207

(二) 第二インターの終焉の開始、労働者組織の新しい形態、ソヴィエト・・・212

(三) 第二インターの終焉、資本主義的生産の新しい段階とプロレタリアートの成層化・・・219

第四部 第一次世界大戦とマルクス主義の大分裂・・・223

第十章 第二インターの崩壊とレーニンの思想における断絶・・・225

(一) レーニンと弁証法、行動の内部における精神・・・227

(二) アイルランド革命と歴史の弁証法・・・233

第十一章 組織の諸形態、プロレタリアートの

自然発生的な自己組織と「前衛党」との関係・・・ 240

(一) 一九〇二年——三年に何が問題であったか？ 労働者の活動と知識人の規律・・・ 243

(二) 一九〇五年の革命と、一九〇五年以後のロシアにおける政治的諸傾向・・・ 247

(三) 大分裂とその後における党の問題に関する新しきもの、大衆と党との関係・・・ 252

第十二章 その後何がおこったか？・・・ 264

(一) 一九二〇年から二一年にわたって行われた、あの有名な労働組合論争、

レーニン、トロツキー、ならびにシリャブニコフの立場・・・ 267

(二) レーニンと彼の新しい考え、「党の活動は非黨員大衆によって

チェックされなければならぬ」・・・ 275

(三) 『レーニンの遺書』・・・ 281

第五部 現代の問題——国家資本主義対自由・・・ 289

第一 ロシアの光景・・・ 291

第十三章 ロシア国家資本主義対労働者の抵抗・・・ 295

第十四章 スターリン・・・ 327

第十五章 ロシア全体主義の終焉の開始・・・ 340

第二 アメリカの光景・・・ 353

第十六章 オートメーションと新しいヒューマニズム・・・ 365



毛沢東——政權の発端から中ソ論争まで・・・ 399

戦争と革命・・・ 401

I 抵抗者の声・・・ 405

II 突如として千の毒草、そして「大躍進」・・・ 410

1 労働者の軍隊化・・・ 411

2 中ソ対立の根源・・・ 416

III 毛沢東思想の弁証法・・・ 422

1 革命の敗北・・・ 424

2 延安時代の「哲学」・・・ 431

3 「三つの妙法」・・・ 435

IV 東洋的専制主義、洗脳——または国家資本主義の経済的強制か？・・・ 439

1 農業の面・・・ 440

2 軍事および工業の面・・・ 442

3 洗脳・・・ 444

V 主観性——今後の発展への徴候・・・ 449

訳者あとがき・・・ 455

制作中

訳者の了解に  
より検印廃止

疎外と革命

定価 1500 円

1964 年 8 月 31 日 第 1 刷発行

著 者 / ラーヤ・ドゥナエフスカヤ

訳 者 / 三浦正夫・対馬忠行

発行者 / 石井恭二

発行所 / 株式会社 現代思潮社

東京都文京区春日 1-6-4

電話 / (813) 1859 振替 / 東京 72442 番

本文印刷 / 加藤文明社

装本印刷 / 形成社印刷

製 本 / 神田橋本製本

(善乱・丁のものは本社またはお買求めの書店でおとりかえいたします)